



# 2024年3月期 第2四半期決算短信〔IFRS〕（連結）

2023年11月1日

上場会社名 小野薬品工業株式会社 上場取引所 東  
コード番号 4528 URL <https://www.ono-pharma.com/ja>  
代表者（役職名） 代表取締役社長（氏名） 相良 暁  
問合せ先責任者（役職名） 広報部長（氏名） 井村 竜太（TEL）（06）6263-5670  
四半期報告書提出予定日 2023年11月7日 配当支払開始予定日 2023年12月1日  
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
四半期決算説明会開催の有無 : 有（機関投資家・証券アナリスト向け）

（百万円未満四捨五入）

## 1. 2024年3月期第2四半期の連結業績（2023年4月1日～2023年9月30日）

### （1）連結経営成績（累計）

（%表示は、対前年同四半期増減率）

	売上収益		営業利益		税引前利益		四半期利益		親会社の所有者に 帰属する四半期利益		四半期包括利益 合計額	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第2四半期	258,713	19.4	97,036	20.9	99,296	22.6	74,520	19.3	74,491	19.5	80,632	29.5
2023年3月期第2四半期	216,701	24.5	80,270	38.0	81,019	36.8	62,442	34.8	62,339	34.7	62,263	19.2

  

	基本的1株当たり 四半期利益	希薄化後1株当たり 四半期利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期第2四半期	153.33	153.32
2023年3月期第2四半期	127.67	127.66

### （2）連結財政状態

	資産合計	資本合計	親会社の所有者に 帰属する持分	親会社所有者 帰属持分比率
	百万円	百万円	百万円	%
2024年3月期第2四半期	895,918	783,288	777,290	86.8
2023年3月期	882,437	747,812	741,869	84.1

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期	—	33.00	—	37.00	70.00
2024年3月期	—	40.00	—	—	—
2024年3月期(予想)	—	—	—	40.00	80.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 2024年3月期の連結業績予想（2023年4月1日～2024年3月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上収益		営業利益		税引前利益		当期利益		親会社の所有者に 帰属する当期利益		基本的1株当たり 当期利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	500,000	11.8	167,000	17.6	169,000	17.7	126,200	11.8	126,000	11.8	259.36

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更

- ① IFRSにより要求される会計方針の変更 : 有  
② ①以外の会計方針の変更 : 無  
③ 会計上の見積りの変更 : 無

(3) 発行済株式数 (普通株式)

- ① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)  
② 期末自己株式数  
③ 期中平均株式数 (四半期累計)

2024年3月期2Q	517,425,200株	2023年3月期	517,425,200株
2024年3月期2Q	38,934,293株	2023年3月期	29,091,218株
2024年3月期2Q	485,813,059株	2023年3月期2Q	488,277,710株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

●本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。なお、上記業績予想に関する事項は、添付資料6ページ「(4) 今後の見通し」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況 .....	2
(1) 当第2四半期の経営成績の概況 .....	2
(2) 当第2四半期の財政状態の概況 .....	5
(3) 当第2四半期のキャッシュ・フローの概況 .....	5
(4) 今後の見通し .....	6
2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方 .....	6
3. 要約四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	7
(1) 要約四半期連結財政状態計算書 .....	7
(2) 要約四半期連結損益計算書及び要約四半期連結包括利益計算書 .....	9
(3) 要約四半期連結持分変動計算書 .....	11
(4) 要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	12
(5) 要約四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	13
(継続企業の前提に関する注記) .....	13
(会計方針の変更) .....	13
(セグメント情報) .....	13
(重要な後発事象) .....	13

## 1. 経営成績等の概況

## (1) 当第2四半期の経営成績の概況

## ①業績の概況

(単位：百万円)

	2023年3月期 第2四半期 連結累計期間	2024年3月期 第2四半期 連結累計期間	対前年同期 増減額	対前年同期 増減率
売上収益	216,701	<b>258,713</b>	42,012	19.4%
営業利益	80,270	<b>97,036</b>	16,766	20.9%
税引前四半期利益	81,019	<b>99,296</b>	18,277	22.6%
四半期利益 (親会社の所有者帰属)	62,339	<b>74,491</b>	12,153	19.5%

**[売上収益]**

売上収益は、前年同期比420億円（19.4%）増加の2,587億円となりました。

- ・抗悪性腫瘍剤「オプジーボ点滴静注」は、競争環境が激化する一方、胃がん、食道がん、尿路上皮がんなどでの使用が拡大したことにより、前年同期比51億円（7.3%）増加の750億円となりました。
- ・その他の主要新製品では、糖尿病、慢性心不全および慢性腎臓病治療剤「フォシーガ錠」は359億円（前年同期比36.1%増）、関節リウマチ治療剤「オレンシア皮下注」は130億円（同4.5%増）、2型糖尿病治療剤「グラクティブ錠」は108億円（同7.5%減）、抗悪性腫瘍剤「ベレキシブル錠」は50億円（同22.0%増）、多発性骨髄腫治療剤「カイクプロリス点滴静注用」は46億円（同3.9%増）、血液透析下の二次性副甲状腺機能亢進症治療剤「パーサビブ静注透析用」は41億円（同2.9%減）、パーキンソン病治療剤「オンジェンティス錠」は31億円（同27.9%増）となりました。
- ・ロイヤルティ・その他は、ブリストル・マイヤーズ スクイブ社、メルク社などからのロイヤルティ収入の増加に加え、アストラゼネカ社との特許関連訴訟の和解に伴う一時金収入170億円を計上したことなどにより、前年同期比270億円（37.6%）増加の988億円となりました。

**[営業利益]**

営業利益は、前年同期比168億円（20.9%）増加の970億円となりました。

- ・売上原価は、製品商品の売上が増加したことに加え、「ジョイクル関節注」および「エドルミズ錠」に係る販売権の減損損失を54億円計上したことなどにより、前年同期比111億円（20.6%）増加の648億円となりました。
- ・研究開発費は、研究に係る費用、創薬提携に係る費用、臨床試験に係る開発費用および導入品等における共同開発費用の増加などにより、前年同期比97億円（24.6%）増加の494億円となりました。
- ・販売費及び一般管理費（研究開発費を除く）は、「フォシーガ錠」の売上拡大に伴うコ・プロモーション費用やIT・デジタル関連の情報基盤強化に伴う費用などが増加したことにより、前年同期比47億円（10.8%）増加の476億円となりました。

**[四半期利益]（親会社所有者帰属）**

親会社の所有者に帰属する四半期利益は、税引前四半期利益の増加に伴い、前年同期比122億円（19.5%）増加の745億円となりました。

## ②研究開発活動

当社グループは、「病気と苦痛に対する人間の闘いのために」という企業理念のもと、これまで克服されていない病気や、いまだ患者さんの治療満足度が低く、医療ニーズの高い疾患領域に挑戦し、独創的かつ画期的な医薬品の創製に向けて努力を積み重ねています。

現在、開発パイプラインには、オブジーボに加えて、抗体医薬品を含む抗がん剤の新薬候補化合物をはじめ、自己免疫疾患や神経系疾患の治療薬候補などがあり、開発を進めています。なかでも、がん領域は医療ニーズが高いことから、重要な戦略分野と位置づけています。

創薬研究においては、医療ニーズの高いがんや免疫、神経、スペシャリティ領域を重点領域に定め、それぞれの領域でヒト疾患バイオロジーを掘り下げ、医療ニーズを満たし得る新薬の創製を目指して、創薬力の強化に努めています。そして、創薬力を強化するために、当社が得意とするオープンイノベーションを積極的に推進するとともに、独創的な創薬シーズを見出し、インフォマティクスやヒト疾患モデル作製、新薬候補化合物作製など、様々な社内外の最新技術を利用して、医療インパクトのある画期的新薬の創製を目指します。

重点領域において、現在、臨床ステージには9品目の自社創製の新薬候補化合物があります。今後さらに創薬のスピードと成功確率を向上させるために、基礎と臨床の橋渡しを担うトランスレーショナル研究も強化しています。研究早期段階からヒトゲノム情報やヒトiPS細胞などの研究ツールとインフォマティクスを有機的に活用することで、標的分子の疾患との関連性を解析し、新薬候補化合物のヒトにおける有効性をより正確に予測・評価できる生理学的指標（バイオマーカー）を見出せるよう努めています。

開発のスピードと成功確率を向上させるために、蓄積した臨床試験データや実際に治験で得られた検体を用いて、様々な解析等を行っています。また、新薬候補化合物の価値を最大化するために、研究段階から研究本部と連携して早期に開発戦略の立案に着手し、複数の疾患を対象に臨床試験を実施しています。欧米の臨床開発機能の充実を図ることで、グローバル(日本、米国、欧州)で臨床試験を実施できる体制を構築しています。

また、ライセンス活動による有望な新薬候補化合物の導入にも努め、研究開発活動の一層の強化に取り組んでいます。

当第2四半期連結累計期間における研究開発活動の主な成果（第2四半期連結会計期間末以後のものを含む）は、以下のとおりです。

## [開発品の主な進捗状況]

## &lt;がん領域&gt;

## 「オブジーボ/ニボルマブ」

## 上皮系皮膚悪性腫瘍

- ・本年6月、国内で「上皮系皮膚悪性腫瘍」を効能・効果とした承認申請を行いました。

## 前立腺がん

- ・本年8月、「オブジーボ」について、日本、韓国および台湾で「前立腺がん」を対象としたフェーズⅢ試験を実施していましたが、有効性が確認できなかったため開発を中止しました。

## 「ビラフトビカプセル/エンコラフェニブ」および「メクトビ錠/ビニメチニブ」

- ・本年5月、「ビラフトビカプセル」および「メクトビ錠」について、国内で「2剤併用療法によるBRAF遺伝子変異を有する根治切除不能な甲状腺がん」を効能・効果とした承認申請を行いました。

## 「ON0-4686」

- ・本年10月、「オブジーボ」と抗TIGIT抗体「ON0-4686」との併用療法について、ブリストル・マイヤーズ スクイブ社主導の「固形がん」を対象としたフェーズⅠ/Ⅱ試験に日本から参加していましたが、戦略上の理由により開発を中止しました。

## 「ON0-4578」

- ・「オブジーボ」とプロスタグランジン受容体拮抗薬「ON0-4578」との併用療法について、「胃がん」を対象としたフェーズⅡ試験を、本年8月に国内で、本年10月に韓国および台湾でそれぞれ開始しました。

「ONO-4685」

- ・本年9月、PD-1×CD3二重特異性抗体「ONO-4685」について、国内で「T細胞リンパ腫」を対象としたフェーズⅠ試験を開始しました。

「ONO-7226」

- ・本年5月、抗ILT4抗体「ONO-7226」と「オプジーボ」との併用療法について、国内で「固形がん」を対象としたフェーズⅠ試験を開始しました。

「ONO-7475」

- ・本年8月、Ax1/Mer阻害薬「ONO-7475」と「オプジーボ」との併用療法について、国内で「膵がん」を対象としたフェーズⅠ試験を開始しました。

「ONO-7913」

- ・本年9月、抗CD47抗体「ONO-7913」について、国内で「骨髄異形成症候群」を対象としたフェーズⅠ試験を実施していましたが、ギリアド社が主導で実施していた同一の患者集団を対象とした海外第Ⅲ相試験（ENHANCE試験）が無益性中止となったことに伴い開発を中止しました。
- ・本年10月、抗CD47抗体「ONO-7913」について、ギリアド社主導の「TP53変異陽性急性骨髄性白血病」を対象とした国際共同フェーズⅢ試験に日本から参加していましたが、有効性が確認できなかったため開発を中止しました。

「ONO-7121」

- ・オプジーボと抗LAG-3抗体との配合剤「ONO-7121」について、日本、韓国および台湾で「結腸・直腸がん」を対象としたフェーズⅢ試験を実施しています。

「ONO-4482」

- ・抗LAG-3抗体「ONO-4482」と「オプジーボ」との併用療法について、日本、韓国および台湾で「肝細胞がん」を対象としたフェーズⅡ試験を実施しています。

<がん領域以外>

「ONO-2910」

- ・本年6月、シュワン細胞分化促進薬「ONO-2910」について、国内で「化学療法誘発末梢神経障害」を対象としたフェーズⅡ試験を開始しました。

「ONO-2808」

- ・本年7月、S1P5受容体作動薬「ONO-2808」について、米国で「多系統萎縮症」を対象としたフェーズⅡ試験を開始しました。

「ONO-7684」

- ・本年8月、FXIa阻害薬「ONO-7684」について、日本および欧州で「血栓症」を対象としたフェーズⅠ試験を実施していましたが、戦略上の理由により開発を中止しました。

[創薬／研究提携活動の状況]

- ・本年8月、米国Twist Bioscience社と、同社独自の抗体ライブラリーを活用して自己免疫疾患に対する抗体医薬品の創製を目指した創薬提携契約を締結しました。
- ・本年9月、米国Adimab社と、同社の治療用医薬品抗体の創製・エンジニアリング技術を活用して、がん領域における二重特異性抗体の医薬品候補の創製を目指した創薬提携契約を締結しました。
- ・本年10月、英国Turbine社と同社のAI駆動型細胞シミュレーションプラットフォームを活用して、がん領域における新規治療標的の同定および検証を実施する研究提携契約を締結しました。



## (2) 当第2四半期の財政状態の概況

(単位：百万円)

	2023年3月期 連結会計年度末	2024年3月期 第2四半期 連結会計期間末	対前連結会計年度末 増減額
資産合計	882,437	<b>895,918</b>	13,481
親会社の所有者に帰属する持分	741,869	<b>777,290</b>	35,422
親会社所有者帰属持分比率	84.1%	<b>86.8%</b>	
1株当たり親会社所有者帰属持分	1,519.19円	<b>1,624.50円</b>	

資産合計は、前期末に比べ135億円増加の8,959億円となりました。

流動資産は、その他の金融資産が減少する一方で、売上債権及びその他の債権や現金及び現金同等物が増加したことなどから102億円増加の3,553億円となりました。

非流動資産は、無形資産が減少する一方で、投資有価証券が増加したことなどから33億円増加の5,406億円となりました。

負債は、仕入債務及びその他の債務や未払法人所得税の減少などから220億円減少の1,126億円となりました。

親会社の所有者に帰属する持分は、自己株式の取得や剰余金の配当があった一方で、四半期利益の計上などから354億円増加の7,773億円となりました。

## (3) 当第2四半期のキャッシュ・フローの概況

(単位：百万円)

	2023年3月期 第2四半期 連結累計期間	2024年3月期 第2四半期 連結累計期間	対前年同期 増減額
現金及び現金同等物の期首残高	69,112	<b>96,135</b>	
営業活動によるキャッシュ・フロー	80,977	<b>36,721</b>	△44,256
投資活動によるキャッシュ・フロー	△37,925	<b>20,713</b>	58,638
財務活動によるキャッシュ・フロー	△15,065	<b>△46,647</b>	△31,582
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	27,987	<b>10,787</b>	
現金及び現金同等物に係る為替変動による影響額	653	<b>782</b>	
現金及び現金同等物の四半期末残高	97,752	<b>107,704</b>	

当第2四半期連結累計期間の現金及び現金同等物の増減額は、108億円の増加となりました。

営業活動によるキャッシュ・フローは、法人所得税等の支払額348億円や売上債権及びその他の債権の増加額260億円などがあった一方で、税引前四半期利益993億円などがあった結果、367億円の収入となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、定期預金の預入による支出305億円や無形資産の取得による支出64億円などがあった一方で、定期預金の払戻による収入605億円などがあった結果、207億円の収入となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、自己株式の取得による支出272億円や配当金の支払額180億円などがあった結果、466億円の支出となりました。

## (4) 今後の見通し

2023年5月10日に公表しました2024年3月期通期の連結業績予想を、下記のとおり修正します。

2024年3月期通期連結業績予想数値の修正  
(2023年4月1日～2024年3月31日)

(単位：百万円)

	売上収益	営業利益	税引前利益	当期利益	親会社の所有者に帰属する当期利益	基本的1株当たり当期利益
前回公表予想(A)	475,000	153,000	154,000	115,200	115,000	235.49円
今回修正予想(B)	500,000	167,000	169,000	126,200	126,000	259.36円
増減額(B-A)	25,000	14,000	15,000	11,000	11,000	
増減率	5.3%	9.2%	9.7%	9.5%	9.6%	
(ご参考)前期実績 (2023年3月期)	447,187	141,963	143,532	112,913	112,723	230.85円

(注) 前回公表予想において、年間の為替レートを1ドル=130円と想定しておりましたが、今回修正予想において、下期の為替レートを1ドル=140円に見直しております。

売上収益は、「フォーシガ錠」が前回公表予想比50億円増加の700億円を見込むことに加え、アストラゼネカ社との特許関連訴訟の和解に伴う一時金収入170億円を計上したことなどにより、前回公表予想に比べ250億円増加の5,000億円を予想しております。

売上原価は、製品商品の売上予想の見直しに伴う増加に加え、「ジョイクル関節注」および「エドルミズ錠」に係る販売権の減損損失を54億円計上したことなどにより、前回公表予想に比べ90億円増加の1,220億円を予想しております。

研究開発費は、前回公表予想から変更はありません。

販売費及び一般管理費（研究開発費を除く）は、「フォーシガ錠」の売上拡大に伴うコ・プロモーション費用やIT・デジタル関連の情報基盤強化に伴う費用などの増加を見込み、前回公表予想に比べ20億円増加の980億円を予想しております。

以上の結果、営業利益は前回公表予想に比べ140億円増加の1,670億円、税引前利益は150億円増加の1,690億円、当期利益は110億円増加の1,262億円、親会社の所有者に帰属する当期利益は110億円増加の1,260億円を予想しております。

(注) 上記の予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成しており、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

## 2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方

当社グループは、国際的なスタンダードに基づく財務情報の開示により比較可能性を向上させ、株主、投資家や取引先など様々なステークホルダーの皆さまの利便性をはかることを目的として、2014年3月期から国際会計基準（IFRS）を適用しております。



## 3. 要約四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 要約四半期連結財政状態計算書

	(単位：百万円)	
	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期 連結会計期間 (2023年9月30日)
資産		
流動資産		
現金及び現金同等物	96,135	107,704
売上債権及びその他の債権	114,396	141,668
有価証券	20	20
その他の金融資産	68,134	33,409
棚卸資産	44,814	48,588
その他の流動資産	21,602	23,881
流動資産合計	345,101	355,271
非流動資産		
有形固定資産	108,420	105,917
無形資産	69,134	60,399
投資有価証券	123,308	133,851
持分法で会計処理されている投資	115	124
その他の金融資産	197,441	202,536
繰延税金資産	35,604	35,006
その他の非流動資産	3,314	2,815
非流動資産合計	537,336	540,647
資産合計	882,437	895,918

	(単位：百万円)	
	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期 連結会計期間 (2023年9月30日)
負債及び資本		
流動負債		
仕入債務及びその他の債務	66,794	52,973
リース負債	2,490	2,338
その他の金融負債	661	6,107
未払法人所得税	34,575	25,675
その他の流動負債	18,409	13,929
流動負債合計	122,929	101,023
非流動負債		
リース負債	6,678	6,636
その他の金融負債	0	0
退職給付に係る負債	3,350	3,419
繰延税金負債	983	1,016
その他の非流動負債	684	536
非流動負債合計	11,695	11,607
負債合計	134,625	112,630
資本		
資本金	17,358	17,358
資本剰余金	17,080	17,102
自己株式	△54,161	△81,262
その他の資本の構成要素	51,701	56,757
利益剰余金	709,890	767,335
親会社の所有者に帰属する持分	741,869	777,290
非支配持分	5,944	5,998
資本合計	747,812	783,288
負債及び資本合計	882,437	895,918

(2) 要約四半期連結損益計算書及び要約四半期連結包括利益計算書  
要約四半期連結損益計算書

	(単位：百万円)	
	前第2四半期 連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期 連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
売上収益	216,701	258,713
売上原価	△53,712	△64,765
売上総利益	162,990	193,948
販売費及び一般管理費	△42,945	△47,604
研究開発費	△39,628	△49,360
その他の収益	457	894
その他の費用	△602	△842
営業利益	80,270	97,036
金融収益	1,224	2,321
金融費用	△478	△64
持分法による投資損益	3	4
税引前四半期利益	81,019	99,296
法人所得税	△18,577	△24,776
四半期利益	62,442	74,520
四半期利益の帰属：		
親会社の所有者	62,339	74,491
非支配持分	103	29
四半期利益	62,442	74,520
1株当たり四半期利益：		
基本的1株当たり四半期利益(円)	127.67	153.33
希薄化後1株当たり四半期利益(円)	127.66	153.32

## 要約四半期連結包括利益計算書

	(単位：百万円)	
	前第2四半期 連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期 連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
四半期利益	62,442	74,520
その他の包括利益：		
純損益に振り替えられることのない項目：		
その他の包括利益を通じて測定する 金融資産の公正価値の純変動	△1,394	7,630
確定給付制度の再測定	△26	△50
持分法適用会社のその他の包括利益を 通じて測定する金融資産の公正価値の 純変動に対する持分	1	4
純損益に振り替えられることのない 項目合計	△1,418	7,584
純損益にその後に振り替えられる 可能性のある項目：		
在外営業活動体の換算差額	1,206	1,709
キャッシュ・フロー・ヘッジの公正価値 の純変動	32	△3,182
純損益にその後に振り替えられる 可能性のある項目合計	1,239	△1,472
その他の包括利益合計	△180	6,112
四半期包括利益合計	62,263	80,632
四半期包括利益合計の帰属：		
親会社の所有者	62,166	80,569
非支配持分	96	63
四半期包括利益合計	62,263	80,632

(3) 要約四半期連結持分変動計算書

前第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

(単位：百万円)

	親会社の所有者に帰属する持分							非支配持分	資本合計
	資本金	資本剰余金	自己株式	その他の資本の構成要素	利益剰余金	親会社の所有者に帰属する持分			
2022年4月1日残高	17,358	17,241	△74,683	51,236	644,754	655,906	5,768	661,674	
四半期利益					62,339	62,339	103	62,442	
その他の包括利益				△173		△173	△7	△180	
四半期包括利益合計	—	—	—	△173	62,339	62,166	96	62,263	
自己株式の取得			△2			△2		△2	
自己株式の消却		△20,356	20,356			—		—	
自己株式の処分		△168	168			—		—	
剰余金の配当					△13,671	△13,671	△6	△13,677	
株式報酬取引		118				118		118	
利益剰余金から資本剰余金への振替		20,245			△20,245	—		—	
その他の資本の構成要素から利益剰余金への振替				△2,223	2,223	—		—	
所有者との取引額等合計	—	△161	20,522	△2,223	△31,693	△13,555	△6	△13,562	
2022年9月30日残高	17,358	17,080	△54,161	48,841	675,400	704,518	5,858	710,375	

当第2四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)

(単位：百万円)

	親会社の所有者に帰属する持分							非支配持分	資本合計
	資本金	資本剰余金	自己株式	その他の資本の構成要素	利益剰余金	親会社の所有者に帰属する持分			
2023年4月1日残高	17,358	17,080	△54,161	51,701	709,890	741,869	5,944	747,812	
四半期利益					74,491	74,491	29	74,520	
その他の包括利益				6,078		6,078	34	6,112	
四半期包括利益合計	—	—	—	6,078	74,491	80,569	63	80,632	
自己株式の取得			△27,187			△27,187		△27,187	
自己株式の処分		△1	86			86		86	
剰余金の配当					△18,068	△18,068	△9	△18,077	
株式報酬取引		23				23		23	
その他の資本の構成要素から利益剰余金への振替				△1,022	1,022	—		—	
所有者との取引額等合計	—	22	△27,101	△1,022	△17,047	△45,148	△9	△45,156	
2023年9月30日残高	17,358	17,102	△81,262	56,757	767,335	777,290	5,998	783,288	

## (4) 要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期 連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期 連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期利益	81,019	99,296
減価償却費及び償却費	8,629	9,086
減損損失	—	5,440
受取利息及び受取配当金	△1,218	△1,607
支払利息	32	46
棚卸資産の増減額(△は増加)	△2,024	△3,476
売上債権及びその他の債権の増減額(△は増加)	△11,671	△25,992
仕入債務及びその他の債務の増減額(△は減少)	45	△7,538
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	81	△2
退職給付に係る資産の増減額(△は増加)	18	—
未払消費税等の増減額(△は減少)	2,151	△4,451
その他	1,816	△595
小計	78,878	70,206
利息の受取額	22	66
配当金の受取額	1,206	1,271
利息の支払額	△32	△46
法人所得税等の支払額又は還付額(△は支払)	904	△34,776
営業活動によるキャッシュ・フロー	80,977	36,721
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△3,267	△2,510
有形固定資産の売却による収入	0	842
無形資産の取得による支出	△2,138	△6,381
投資の取得による支出	△1,143	△1,918
投資の売却及び償還による収入	7,062	2,820
定期預金の預入による支出	△50,100	△30,455
定期預金の払戻による収入	12,110	60,455
その他	△450	△2,140
投資活動によるキャッシュ・フロー	△37,925	20,713
財務活動によるキャッシュ・フロー		
配当金の支払額	△13,650	△18,049
非支配持分への配当金の支払額	△6	△9
リース負債の返済による支出	△1,407	△1,402
自己株式の取得による支出	△1	△27,187
財務活動によるキャッシュ・フロー	△15,065	△46,647
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	27,987	10,787
現金及び現金同等物の期首残高	69,112	96,135
現金及び現金同等物に係る為替変動による影響額	653	782
現金及び現金同等物の四半期末残高	97,752	107,704



(5) 要約四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

当社グループは、第1四半期連結会計期間より、以下の基準を適用しております。

IFRS		新設・改訂の概要
IAS第12号	法人所得税	リース及び廃棄義務に係る繰延税金の会計処理を明確化

なお、上記基準書の適用による当社グループの要約四半期連結財務諸表に与える重要な影響はありません。

(セグメント情報)

当社グループの事業は医薬品事業の単一セグメントであるため、セグメントごとの記載を省略しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。